

モモせん孔細菌病とナシ黒星病の防除情報

平成27年9月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生状況

〔モモせん孔細菌病〕

8月下旬に行った巡回調査（18ほ場調査）で、西三河地域を中心に8ほ場で発生を確認し、発病葉率は17.9%（平年8.8%、前年8.6%）で、過去10年と比較して最も高くなっています。

〔ナシ黒星病〕

7月下旬に行った巡回調査（32ほ場調査）では、発生ほ場率は、43.8%（平年26.6%、前年18.8%）で、発病葉率は4.6%（平年0.6%、前年0.6%）でした。過去10年と比較して発生ほ場率は2番目に高く、発病葉率は最も高くなっています。

2 防除対策

- （1）モモせん孔細菌病は、落葉期まで降雨により葉に感染発病し、感染葉の落葉痕が次作の伝染源（枝病斑）になります。降雨が予想される場合は感染防止のため表を参考に計画的に薬剤散布するとともに、枝病斑を見つけたら直ちに除去しましょう。
- （2）ナシ黒星病では、次作の主な伝染源となる罹病落葉の処理を適切に行いましょう。
- （3）耐性菌の発生を防ぐため、FRACコードが同じ農薬を連続して使用することは避け、秋期防除を行いましょう。
- （4）スピードスプレーヤーで防除する場合は、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。

表1 モモせん孔細菌病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	系統	FRACコード
ICボルドー412	—	—	無機銅	M1
アグリマイシンー100	収穫60日前まで	2回以内	抗生物質・抗生物質	41、25
バリダシン液剤5	収穫7日前まで	4回以内	抗生物質	26
デランフロアブル	収穫7日前まで	4回以内	キノン	M9

表2 ナシ黒星病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	系統	FRACコード
ICボルドー48Q	収穫後～開花前	—	無機銅	M1
ベルコートフロアブル	収穫14日前まで	5回以内	グアニジン	M7
インダーフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	EBI	3
オキシラン水和剤	収穫3日前まで	9回以内	有機塩素・有機銅	M4、M1
ナリアWDG	収穫前日まで	3回以内	ストロビルリン・カルボキシアミド	11、7

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。

FRACコードの詳細は、<http://www.jfrac.com/fracコード表/> を御覧ください。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。